



10月『諭達』を受け 本部巡教、一斉巡教

8月大教会教会長会議
立教185年8月22日
大教会長 片山幹太



発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R220825-0828-18
奈良県天理市指柳町270-1
本島話所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【9月1日～9月15日】
朝づとめ 午前6時15分
夕づとめ 午後6時45分
【9月16日～9月30日】
朝づとめ 午前6時30分
夕づとめ 午後6時45分

大変お暑い中、月次祭参拝ならびに教会長会議にご出席くださりありがとうございます。

来たる教祖140年祭の年祭活動は自身、真柱様に心を揃えて三年千日を歩ませて頂きたいという気持ちです。

10月26日は諭達が御発布されます。年祭活動を我が事として心に治められるよう心の準備を整えておきたいと思っております。

有難いことに諭達発布後、本部巡教を大教会に頂戴します。

御本部から希望日を3つ提出するよう、とのことですから、本島としては1月21日、22日、23日を希望日として提出させて頂きました。寒い季節ですが、大祭月に合わせて海外からの帰参者も一緒に受講させて頂きたいの思いからです。

本部たすけ委員会より、本部巡教を頂いた後まず大教会として教祖年祭に向かつての方針、目標を立てる

こと。その方針と目標をもって全教会一斉巡教を行うとのこと。全教会一斉巡教は1月の本部巡教後から5月末日までです。今後、各教会に希望日をお尋ねすることになります。

そして全教会一斉巡教後、各教会ごと目標を立ててください、とのこと。と。

全体としてはそのような流れになっていきます。まずは真柱様の諭達から始まり、すべての教会ようぼく信者が目標を立てて三年千日を歩むということ。と。

どうかご承知おき頂きたいと思えます。

次に今日は学生層育成者講習会で松山勇一先生のお話を聞かせて頂きました。本島通信の書面でもぜひ読み返し、理解を深めたいと思えました。親から子への縦の声掛け、仲間同士の横からの声掛けのほかに、斜めからの声掛けも人材育成になることを学びました。

そして9月は「全教一斉にをいかけデー」があります。

7月に奈良県内で安倍元首相が街

頭演説中に撃たれた事件があり、その容疑者が旧統一教会によって家族が壊された恨みからの犯行だったこととの報道が連日繰り返されています。そこで路傍講演がしにくくなっているとの声も耳にしています。

「にをいかけ」とは何でしょうか。匂いとは教祖の教えであり、教祖の教えを信仰する私たちの日常生活から表れてくるものだと思います。

このようなふしを通して、教祖の教えを信仰する私たちの行いを見つめ直し、全教一斉にをいかけデーは心を引き締め勇んで勤めさせて頂きましょう。

最後に、9月1日から11月27日まで、私は修養科一期講師を勤めさせて頂くことになりました。大教会をしばらく留守いたします。

年祭活動が始まるタイミングに戴いたおちばの御用ですから、人様のために心を尽くしながら、心の器を大きくしていく3ヶ月間にしたいと思います。

留守の3ヶ月間、本島をよろしくお願ひします。

(文責・本島通信編集室)

信仰している自分の姿が 幸せであるのを見せよう

まつやまゆういち
本部学生担当委員 松山勇一 先生

この夏おぢばは、「夏休みこどもひのきしん」や「少年ひのきしん隊本部練成会」、そして「学生生徒修養会高校の部」の開催と、コロナ禍ではありますが出来る形を模索しながら育成活動の動きで賑やかになってきています。

そこには「これ以上、育成活動を止めるわけにはいかない」というの

が私たち育成者の共通するところではないでしょうか。

思えば2年前のコロナ感染拡大から、育成活動は一旦完全に止まってしまういました。

そこでオンラインによる動画配信や練り合い、教理勉強などが行われました。それは貴重な動きではありましたが、それだけでは丹精は難しいことも分かりました。

私たちの活動は、顔を合わせて、人と人が交流して、その雰囲気や熱量をもって人を育てること。今まで当たり前だったことがいかに大切だったかを再確認する機会にもなりました。

私たちの歩みは陽気ぐらしに向けてのことです。行事や活動はその手段であり、目的は陽気ぐらしにあり

ます。

教祖130年祭における真柱様のお言葉で、「これからの歩み方を思索するとき、何にもまして道の将来を担う人材を育成する必要を強く感じる」。さらに「道の将来を担う人材を育てる。また、増やす活動に腰を据えて取り組まなければならない」と仰せられました。

さらに立教181年少年会年頭幹部会におきましても真柱様は、「私たちがこの道を通るうえに、常に心に置いておかなければならないことは、自らが成人の道を進むとともに、このたすけ一条の道を、教祖に続いて、後々に間違いなく伝えることでもあります」

と、縦の伝道の重要性を説かれると共に、

「いずれ彼らが成長し、一人で物事の判断をするようになったとき、教祖の教えを、自分の思慮判断の源にして成人の道を歩けるよう、彼らの心に神一条に道を通る土台を築いていくこと」

と育成の目指すところをお示し下さっています。

これらのお言葉をもとに、今日のお話を進めたいと思います。

大きな流れとして、一つは「今どきの若者とそれを取り巻く環境について」。二番目に「その若者とのように向き合うのか」。そして三番目は「コロナ禍における人材の育成について」です。

若者に信仰の元一日を伝えよう

さて、陽気ぐらし世界の建設のため、道の将来を担う人材を育てることとは常に取り組まなければならない課題であり、私たちの使命です。

これから道を担う若者に信仰の喜びをつかんでもらい、そして日々の生活を教えに基づいたものにしてもらうためにも、若者にぜひ持ってほしい考え方があります。

それは「自分が存在していることが有難い」こと。そして「自分がいるのは神様のおかげ、お道のおかげ」であること。さらに「親から言われてではなく、自分の意思で信仰したい」です。

皆さま方は「今の若い人の考えていることはちょっと分からない」「今の若い人と私たちは感覚が違う」と思っていないでしょうか。

私は立場の上から若い本部勤務者、学修に来られる20代の若いスタッフ、



10代の学生会員と多く接しています
が、しばしばそう思います。

これは一般論として今時の若者像
として取り上げられる事例に、新入
社員が上司の誘いを断るといふのが
あります。

「〇〇君、今日仕事終わったらこの
後一杯どうか？」

「いえ結構です。それって仕事上必
要あるんですか？」

お酒の場もコミュニケーションの
一つとして、仕事では学べないこ
とも学べる。コミュニケーションが
円滑になる。と教えられ育った世代
がある一方で、今の若者の場合「業
務時間外に付き合わなければなら
ないのか」「自分の時間は自分で使
方を決めたい」という考えの方が大
勢입니다。

ただし彼らは、上司の考え方や生
き方を否定したいわけではないので
す。ただ単に自分の考え方や生き方
を大切にしたいという、ただそれだ
けなのです。

やはり世代が違えば見てきたもの
が違う。当然ながら70代と40代の価
値観が違うように、若者は若者世代
ならではの価値観を持っています。
ゆとり世代、さとり世代、Z世代と

も区分されています。

デジタルネイティブと言いますが、
生まれた時、物心ついた時からイン
ターネット環境に囲まれている世代
です。

これはあくまで一般論ですが、こ
の世代の特徴は例えば、「欲がない」
「大きな夢を追わない」「合理的で現
实的である」「人付き合いは狭く深
くより広く浅くを好む」「男はこう
あるべし、女はこうあるべしとい
う考え方が少ない」と言われています。

私が申し上げたいのは、どの世
代の価値観や考え方が正しいとか間
違っていているということではありませ
ん。世代が違えば見えているものが違
う。また同じものを見ていると感じ
方が違うのには理由があるというこ
とです。

その相手と自分の世代が違うので
あれば、価値観や人生観はまったく
異なるのだということ認識し意識
することから始め、その上で、我々
からすれば子どもや孫の世代を育成
丹精するためには相手を変えるので
はなく、相手に寄り添う姿勢が必要
なのではないかと思うのです。

今の若者の価値観や人生観を作っ
ているもの一つとして、情報化社

会があります。

現代の日本人が一日に触れる情報
量は、江戸時代の人の一年分、平安
時代の人の一生分と言われています。
外国のこと、文化、政治、スポー

ツ、なんでも膨大な量の情報が入っ
てきて、その中から自分に必要なも
のを取捨選択し、自分に関係ないと
思ったものはほとんど忘れられたり、聞
き流したりを毎日繰り返しています。
一次情報だけでなく、さほど重要

でない枝葉の口コミなどもどんど
ん入ってくる。そういった情報化社会
の中で若者は過ごしています。

スマートフォンがあれば、いろん
な情報がすぐ手に入られる。学校
の宿題もスマートフォンで撮影すれ
ば勝手に教えてくれる。そんな時代
に生きる若者に、どのように信仰を
伝え、親神様やお道のおかげで自分
がいるという実感を持ってもらうこ
とが出来るのでしょうか。

ここでは代を重ねた信仰家庭に生ま
れた若者、教会長子弟や信者子弟、自
宅に神様をお祀りして育った若者
について考えてみたいと思います。

子どもの立場から眺めれば、自分
はここに居て当たり前だと思ってい
ます。なぜなら大きな身上、事情を

抱えていない限り、物心ついたとき
から身体を動かすことができる。食
事をとることができる。学校に通う
ことができる。その毎日を繰り返し
ているからです。

でも親の立場から見れば、お父さ
んとお母さんが出会ったこと、子ど
もが授かったこと。その子どもも小
さいときケガや病気で神様にお願
いした日々がある。それらを思い返せ
ば、今元気に過ごしていることは決
して当たり前ではないということが
親の立場では分かります。

この時点で、子どもと親からの見
え方が違います。

お道の信仰の中で生まれ育ってき
た子どもに対して、伝えるべき大事
なことを伝え、身につけてもらうこ
とこそが、その子が生まれてきたこ
とを尊重していることになるのでは
ないかと私は思います。

どの家にも入信のきっかけ、たす
けられた元一日があります。そのこ
とを知っているのだろうか。知って
いたとしても、その元一日のお陰で
今の自分があること、そこまで考え
が及んでいるだろうか。何よりも家
の入信から今日までつないでくれた
祖父母、両親のお陰であること。こ

のことを繰り返し熱意を持って伝えなければならぬと思います。

子どもが大きくなり結婚して親の立場になったらこっちの思いが分かってくれるだろうという期待があるかもしれませんが。でもその時を待っている間に、子どもは進学、就職で親元から離れ、実家に帰る機会もないまま、家庭を築いていくことになりす。分かって分かってもなく、両親と言わず、教会からも周囲の関わりある大人からも、それぞれの信仰の元一日を伝え、意識するように導かなければならないと思います。

伝えることができるのか、不安にもなりますが、やるしかありません。私たちがようばくには言葉の力があるとお教えくださいます。

明治28年10月7日のおさしづ、言葉一つがようばくの力なら、どうする事も、戻す事も出来ん。皆んなそれに凭れくって若木が育つ。世界に何ば育つとも分からん。

と、言葉一つがようばくの力と、ようばくの使命、また若い人を育てる上での言葉、声掛けの重要性をお教え下さっていると思います。

まずは伝える側の我々が信念と決

意をもって臨まなければなりません。

また教会長さんや実の親からだけでなくも、周りの大人の声掛けで若者や学生に信仰の土台を意識できる働きがあると思います。ちょっとしたひと言の声掛けが、その若者の心のパズルにピースを埋めることがあります。

私の経験ですが、私は25歳の時、修養科へ入らせて頂きました。私のクラスの一人、70歳近いおじさんが私のハッピーと名札を見るや「おお、江州の松山君か。あんたの所とうちは兄弟みたいなものやからよろしく！」と声かけてくれたのです。

江州分教会は滋賀県にある本部直属教会で、部内教会もない小さな単立教会です。

そのおじさんは豊繁分教会のハッピーを着ていました。後から知ったことですが、その教会の役員さんとして、身上的の御守護を願われ2度目の修養科を志願されたのです。

江州分教会と豊繁分教会は設立の経緯が違います。最初は一瞬びつくりしたのですが、この「兄弟みたいなものやからよろしく」が私にとつて大きなひと言になったのです。

私は信仰6代目になります。初代

は明治11年に大阪で泉田藤吉先生に、をいを掛けて頂きました。それ以降、3代目まで天恵四番と申しまして、今の豊繁分教会の信者として居たのです。ところが3代目(私の曾祖母)が豊繁分教会から教会本部へ所属変更し、次の4代目(私の祖父)の代で江州という教会を担任させて頂くことになりました。

曾祖母は独身でしたので、養女と養子ももらいました。私と曾祖母とは血縁関係はありません。信仰6代目とは言え、曾祖母以前の信仰はどこか他人事と言いますか、おとぎ話を聞くような思いを持っていました。

そのため自信を持って、これが私の家の信仰のルーツなんだということに乏しくて、基礎のない建物に住んでいるような気持ちはずっと持っていました。

そんな私に、「あんたの所とうちの教会は兄弟みたいなもんや」とおじさんがひと言仰った。そのおじさんは挨拶ぐらいい言ったのかもしれない。ただ私にとってそのひと言で「あんたの家の初代と2代はちゃんと大阪におったんやぞ。あんたの初代や2代はうちの先祖と一緒に豊繁で信仰していたんだぞ」というこ

とが心にストンと治まったのです。そこで初めて、家の信仰のルーツはこれなんだ、という自信となるものを与えて頂きました。

若者に対して信仰の元一日を伝えるとともに、年長者から「あなたのおじいさんはこんな御用をされていた」「あなたのおばあさんにはこんな話を聞かせてもらった」と伝えることは、これから道を歩む者にとつて大きな光となつて、その行く先の道を照らしてくれると思います。

信仰の幸せな姿を見せる

続いて自分の意思で信仰をつかむことについてお話ししたいと思います。昨今「宗教二世」という言葉を耳にしたことはないでしょうか。

もともとはキリスト教系の新宗教に両親が信仰することです。困っているんだという若者が使っている言葉でした。

ところが今回の安倍元首相の事件以降、新宗教以外の宗教や宗派でも声を挙げる人が増えてきています。申すまでもなく信教の自由は憲法で保障されたところですから、一見すると縦の伝道とは相反するイメージを持たれる方もいるかもしれま

せんが、決して私はそうではないと思っています。

教会本部に宗教事情調査研究会という部署があります。カルト宗教やマルチ商法についての情報収集や、注意喚起を行っています。

いわゆる「宗教二世」問題の根本には、「この教えを信仰しないと不幸になるぞ」と刷り込まれ、親の信仰により様々な社会的制約があり、当たり前のことが出来ないことにあるそうです。

私たちの教えは、親神様は無い世界、無い人間をお作り下された元の神様、実の神様です。そして私たちは陽気ぐらしに向かつて信仰させて頂く最後の教えです。

ですから、私は縦の伝道について、有無も言わず強制的に信仰を継承させるのではなく、後に続く者が自然と受け入れてくれること。また次世代が自ら求めてこの信仰を受け継ごうと思うことだと思います。

そこで私たちに必要なのは信念、また強い決意、そして何より信仰している自分が幸せであるという姿ではないでしょうか。私はここが揺らいではいけないと思います。

事実、熱心にお道を通っている20

代の若者に、なぜ信仰しようと思っただのか聞くと、多くが祖父母や両親からの影響が強いと一様に答えてくれます。「お祖父さんの厳しさから信仰を学んだ」という若者がいます。対照的に「お父さんの優しさから信仰を学んだ」という若者もいます。

私たちの縦の伝道は、厳しくても優しくてもいいのです。そこに信念と決意と、信仰して幸せな姿があれば伝わっていくものだと思います。

ですから難しい若者世代ではありますが、私たちは真剣に関わっていただくことが重要ではないかと思えます。私自身、自分の意思で信仰しよう、お道を通ろうと思った瞬間は、天理高校3年生のとき、おさづけの理を拝戴した瞬間でした。

その時、私は両掌が確かに温かくなるのを感じたのです。その一瞬で、私は親神様はいらっしゃるんだと確信し、表現としては適当ではないかもしれませんが、私自身の入信の元

一日だと思っています。しかし私と同じ体験をしたところで、誰もが同じように感じるかと言えれば決してそうではありません。

中には、偶然暖房が当たったからとか、何も無いのに温かいものを感じ

じるのは不気味だと思う人もいるかもしれませんが。

私が神様の存在だと感じることでできたのは、そのように導いてくれた両親や祖父母、教会の皆さんの信仰姿勢のお陰なんだと思います。

私の子どもの一人は発達障害児です。今ではこの発達障害のお陰で家族が陽気ぐらしでできるようになるとか、同じ事情で困っている方に目を向けられるようになるためにお与え下さったものと思っています。その土台、素地は両親や祖父母が作ってくれたからだと思います。

代を重ねた信仰家庭の若者が自分の信仰をつかむためには、何より先ず周囲にいる人が、大人が、信仰の喜びを感じている、表していること、これが何よりも欠かせないと思います。

若者を導く姿勢を、教祖ひながたに学んでみたいと思います。

稿本天理教祖伝逸話篇では、入信まもないころの飯降伊蔵先生に糊を三粒持って、

「これは朝起き、これは正直、これは働きやで。」(二九 三つの室)

と大切な角目を分かりやすくお教え下さいました。

また、「二二二 いとに着物を」というお話では、山田伊八郎先生の長女いく多様誕生一年のお礼参りの話として、

「倉橋のいとも来てくれたらと思っていました、ちょうど思う通り来て下されて。」

と仰せられ、教祖は、大人だけでなく、いつ、どこの子供にでも、このように丁寧な仰せになったのでした。さらに「一九五 御苦勞さま」というお話では、高井直吉先生の懐旧談が書かれています。

「教祖程、へだてのない、お慈悲の深い方はなかった。どんな人にお会いなされても、少しもへだて心がない。どんな人がお屋敷へ来て、可愛い我が子供と想うておいでになる。どんな偉い人が来て、『御苦勞さま。』

物もらいが来て、

『御苦勞さま。』その御態度なり言葉使いが、少しも変わらない。皆、可愛い我が子と想うておいでになる。それで、

どんな人でも皆、一度、教祖にお会いさせてもらうと、教祖の親心に打たれて、一遍に心を入れ替えた。教祖のお慈悲の心に打たれた

のであろう。

例えば、取調べに来た警官でも、あるいは又、地方のゴロツキまでも、皆、信仰に入っている。それも、一度で入信し、又は改心している。」

やはり代を重ねた信仰家庭の若者が自分の信仰をつかむためには、育てる側の我々が教祖ひながたを辿ろうとしている姿勢、また教祖のように大らかな心、温かな心に努める姿勢が重要だと思えます。

斜めの立場からの声掛け大切

さて、若者への声掛けは、年が近い者から声をかけてもらおうかなと思われと思います。対象となる若者に年齢の近い方から声を掛けて頂くことは有効的ですし、ぜひお願いしたいところです。

ですが私は、親世代から、また親世代の少し上の先生方からもぜひお声を掛けて頂きたいのです。

と申しますのは、若者や学生から見て実の両親、所属教会の会長さんは縦の人間関係です。縦から言われることは重要ですし、時にはある種の力が働いてまいります。

対して同じ学生や少年会員同士の

繋がり、仲間関係は横の人間関係です。この横の関係を増やしてもらいたいというのは人材育成の上で欠かせないので、横は気軽である反面、どうしても人間関係が切れてしまうという一面もあります。

ここでお願いしたいのは、縦でも横でもなく、斜めの関係です。

例えば親戚のおじさん、おばさん、上級を共にする兄弟教会の先生、近所にいるおっちゃん、おばちゃん。これらは必ずしも縦の人間関係ではないですね。縦の関係と言えば極端な言い方をすれば、いつまでも揺らぐことのない人間関係、絶対的な関係です。

一方で斜めの人間関係はお互いに適度な距離を保つことができる関係です。横の人間関係とも異なります。決して同列、同世代ということではありません。

この縦と横を補ってくれるのが斜めの人間関係であろうかと思えます。「ちょっとお節介かも知れないけど、次に顔を見たとき、あそこの息子さんにお祖父さんお祖母さんの話をしてみようかな」とか、「近所にいるなかなか教会へ行けてないあの子、ちょっと声を掛けてみようかな」こ

んなお声がけをお願いしたいのです。相手は10代から20代です。親から言われたとき、会長さんから言われたとき「うるさいな」とか、「しつこいな」とか思うことが多いかも知れません。

ところが親以外の大人、会長さん以外の先生からも声がかかる。「ひよっとして本当に大事なことなのかな。自分にとって必要なものなのかな」と思うのではないのでしょうか。

所属の会長さんから「別席の話、聴いてみませんか」と勧められる。ちょっと乗り気にならない若い子がいたとします。ところがちょっと離れて住んでいるおっちゃんから「もう18歳になったやろ。17歳から別席運べるんやで」と電話が掛かってくる。「おっちゃんがそこまで言うんだったら、きつと得るものがあるんだらうな」と思うのではないのでしょうか。

先ほど申しました世代間の差がある場合、却って新鮮に受け入れることが出来ると思えます。

無理に若者に合わせる必要はありません。少し、ほんの一步步み寄る。そういった気持ちでいいんです。どの方のひと言で若者の人生がゴロリ

と変わるか分かりません。

斜めからのひと言、これが大きなおたすけに繋がる。そういった可能性は大いにあるかと思えます。

「コロナ禍で寄り添う姿勢を

最後にコロナ禍における人材育成という視点からお話させて頂きます。

このコロナウイルス感染拡大のため様々な制約がある中、私たちはもちろん若者、学生も今までは考えられなかった生活を過ごしてまいりました。

長期の休校やリモート授業が続いて、新入生は人間関係を作ることもままならない。そういった日々が続きました。だんだんとコロナ前の動きに社会が戻っても、人間の心が追いつかない、そんなことを耳にします。報道で休学する人、中退せざるを得ない人も多いと聞きますし、年齢を問わず自ら命を絶つ方も増えていることも聞きます。

そこで私たち学生担当委員会では年間の活動方針として「共に教祖のようほくとして育つ」を掲げております。

私たち次世代を育てるお互いは、まず自らがようほくとしての自覚を

新たにし、日々をいがい、おたすけに勤しみ、その姿をもって若者の歩むべき道を照らして行きたい。その上で若者一人ひとりが毎日の暮らしの中で、親神様の御守護に気づき、教会を心の拠り所として、そして何よりも信仰の喜びを感じて、教祖のようばくに育つようにと丹精を重ねたい、との思いからの活動方針です。

今までは行事に送り出すことが若者の丹精の大きな柱でした。おちばや教会、教区の行事によって、その行事に声を掛けることが育成の中心でありまして、参加した行事によって私たちも若者も育てて頂きました。

このことには今も変わりはありませんが、このコロナ禍においてはなかなか元の通りとはいかないのが実情です。しかし今まで同様の行事がなくても、集まりがなくても、コロナ禍でも出来ること、すなわち日々の丹精に努めたいと思います。

真柱様の今年の年頭ご挨拶にて「与えられた条件の中で、やらなくてはならないこと、今の時局を考えて、それぞれの勤めを果たして頂く」と仰せられました。コロナの状況下でも出来ることをやるしかない。そこでそれぞれの教会や家庭において、若者に個別に寄り添い、声を掛けることから日常の丹精をお願いしたいのです。

例えば一人ひとりに対して誕生日や進学進級といった機会に、教会からその若者や学生に手紙を出す。また例えば、講社祭でその家の若者に会うことができなくても、何かしらひと言メッセージを残す。また今以上に親しみが持てるように教会の会報やSNS、インターネットの発信などに工夫をして会長さん以外の教会家族の顔が見えるようにする。

大きな活動は出来なくても、少しの間や工夫で、若者、学生、また少年会員に「あなた達の方に向いてますよ」という寄り添う姿勢を示すことは出来るのではないかと思います。孤独感を生み出しやすい世の中ゆえに、小さな心がけ一つひとつが大きな拠り所の元となってくると思います。

明治23年9月30日のおさしづです。石の上に種を置く、風が吹けば飛んで了う、鳥が来て拾うて了う。

生えやせん。心から真実時いた種は埋つてある。鍬で掘り返やしても、そこで生えんや外で生える。誠真実の種はたとえ鍬で掘り起こされても必ず生えて芽を出す。と仰せられています。また一つに明治29年10月10日おさしづに、蒔き流し蒔き流し、あちらにしょんぼり、こちらにしょんぼり、こちらもならん。蒔いたもの修理する。あちら一人育て、こちら一人育て、何処へ種蒔いたやらという処から生えて来る。眺めて見れば、その道筋一粒万倍という。

とお教え頂きます。一生懸命する中に、どこに御守護の形は見えてくるか分からない。決して無駄になる声掛け、心がけはないんだということをお教え頂くお言葉と思います。

逸話篇「一二二 理さえあるならば」では、榊井伊三郎先生は大和一帯の干ばつの際、自分の田には水を入れず、人様の田んぼばかりに水を入れられました。しかし奥さんのおさめさんがかんるだいな近くの水溜まりから水をもらって来られ、藁しべで我が田の周囲に置いておられたところ、地中から水気が浮き上がって

いた。榊井先生の田では村中が不作にも関わらず、十分な収穫が得られたというお話があります。

我が子や我が教会の信者子弟のみならず、広く若者に心を配り、声を掛けるという行いは、この伊三郎先生が我が田に水を入れず、人様の田に水を入れ続けた行動に通ずると思います。その心を親神様がお受け取りくださって、思いがけず我が家、我が教会に御守護をお見せ下さることがあると思います。

最後にまとめさせて頂きます。私たちはまもなく教祖140年祭に向かった活動となつてまいりますが、表統領は今後の活動として教祖150年祭と立教200年をご提示されました。

今の学生層、また少年会員の年齢層は15年後、教会でも家庭でも職場でも中心となつてくる年頃です。この次世代の育成のために、縦から、横から、さらに斜めから、若者、学生に心を寄せて、声を掛け、日々の丹精に励ませて頂きましょう。

信仰の幸せ、喜びを次世代に伝えていくことです。共に喜びを感じて、教えを伝えて行きましょう。ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

八月月次祭 祭典役割

八月月次祭祭文

立教百八十五年八月二十一日

献饗長 寺本教生
伝供 西山道教・篠原不王・吉田晴雄・向所隆文・永島宗行・大上道徳・原口実・後藤正治・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・吉田知彦・高島栄造・長濱充憲・岩橋守行・長尾海和・白垣初生・寺本邦一・岩橋秀一

鎌田典夫・山下英久・須崎晴道・位下道治・村田輝夫・溝口晋太郎・川村吉夫・木村太喜・大矢万三

雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川高範・伊東賢太郎・鎌田康典・伊東慎平・鎌田仁史・白垣俊生(順不同)

祭主 指方	大教会長	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
	老木邦光			
祭主	大教会長	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
指方	老木邦光	井上哲 岩橋竜造	賛者 奥村龍夫	
地方	西山道教	窪田靖明 奥村龍夫 山下英久	片山直明 岩橋守行 位下道治	
てをどり	大教会長 高島清弘 寺本教生 会長夫人 片山やすゑ 池田さわみ	平井真治郎 向所隆文 高島栄造 雲庵まち子 伊東晴美 梅木澄代	原口実 岩橋秀一 大矢万三 宮武有為子 谷口十糸子 肥後良子	雲庵春彦 溝口晋太郎 寺本邦一 長尾海和 長濱充憲 木村太喜 加藤道代 菅岡和美 長尾善絵
神殿講話	松山勇一先生	(学生層育成者講習会)		

この神床にお鎮り下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創り下され天地抱き合わせの懐住まいの下ひたすら陽気ぐらしの道へとお導き下さいます御守護の程は、誠に有難く勿体ない限りでございます

私共は届かぬながらも日々たすけ一条につとめ励ませて頂いておりますが、その中にも今日の吉き日は当大教会の8月の月次祭を執り行う日柄を迎えましたので只今から役目に与るおつとめ奉仕者一同勇み心を一につに合せて陽気に座りづとめ・てをどりを勤めさせていただきます

御前には折からの暑さも厭わず今日を楽しみに帰り集いました教え子達、日々に賜る御厚恩の数々に心からお礼申し上げ、併せてなおも変らぬ御守護にお継りする真実の状をも御覧下さいます親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

尚本日は御本部学生担当委員会より松山勇一先生の御出向を頂き祭典に続いて「学生層育成者講習会」を開催させていただきます

私共はこの講習会を通しておだばに心を揃え、これまでの活動の上に更にそれぞれの教会活動の中核となる人材育成の意識を高め、その一人一人に心を尽くして一層の丹精に励ませて頂く所存でございます

更に昨日は「第三十二回少年会本島団総会と夏のつどい」を開催させて頂き、総会の席上少年

会長様から御告辞を賜りお言葉に込められた思召を胸に道の将来を担う少年会員と共に成人の道を歩ませて頂く決意でございます

ここに改めて私共本島の道につながる一同は過ぐる三年間に培ってまいりました「一手一つ」の心で陽気と勇心を身近な人達から一人でも多くの人々に伝え広めさせていただきますでございます

尚私事ながら先に御本部より来る九月一日より十一月二十七日までの三ヶ月間修養科一期講師の御用を拝命し一生懸命に勤めさせて頂く所存でございます

この間この大教会部内教会の上には一段の親心を賜りたすけ一条の御用にお連れ通り下さいますようお願い申し上げます

親神様には何卒厚き親心にお護り頂き互い立って合い扶け合い睦び交す陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお願い育ての程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

入社祭

立教185年8月の入社祭はありませんでした

8月22日(月)
【香川県丸亀市】

天候 曇後時々晴

最低気温 26.5℃

最高気温 33.8℃

平均気圧 1003.9 hPa

平均湿度 79%

平均風速 2.3 m/s

日照時間 9.9 時間

降水量 0.0 mm

マリーナで神殿修築、パシフィックコースト、ハリウッドで屋根葺替、鎮座奉生祭

マリーナ教会(岩橋元博会長、米国カリフォルニア州サンフランシスコ市)では、去る立教185年5月26日のお運びで神殿修築願の理の許しを戴きました。8月6日午前10時より大教会長(随行・長谷川邦昭役員)を迎え奉告祭を執り行いました。



マリーナ教会は立教154年11月26日に移転建築のお許しを戴き、現在地に移転してきましたが、昨年12月の記録的な

大雨により、神殿の壁や天井にカビが発生しました。そこでカビ除去を試みたところ、壁材にアスベストが含まれていることが判明しました。また建物内部の劣化が進んで傷みも著しいため、役員信者と話し合い、参拝場内のカーペット廃棄に加え、神殿の壁、天井、上段を修築させて頂きたいと意見がまとまり、神殿修築願を願い出しました。

挨拶に立った大教会長は、「おふでさきに『月々』は一度だけ、『年々』は一度も出てきません。しかし『日々』は62回も出てきます。それだけ日々の神様の御用が大切ということだと思います」と述べられた上で、「月々の活動や年々の行事は大勢の人と一緒に行うことが多い。勇み合うためにも大勢で行うと良いと思います。一方で、日々は個人の意識によって行うことが多い

です。自分自身の決心で行うことが出来ます。」「コロナ禍により、日々一人ひとりが親神様の教えと親心を心において勤めさせて頂きましょう」と日々の勤めの実行を促されました。

なお奉告祭に先立ち、8月5日午後8時30分より鎮座祭が執り行われました。

パシフィックコースト教会(屋敷ゲリー会長、米国カリフォルニア州モンテリーパーク市)では、去る立教185年7月26日のお運びで神殿屋根葺替願の理のお許しを戴きましたので、8月12・13日に大教会長(随行・大西知役員)を迎え、鎮座奉告祭が執り行われました。

パシフィックコースト教会は昭和36年3月27日に理のお許しを戴き現在地に移転してまいりましたが、以来60余年を経て、神殿の屋根が著しく老朽化し、このままでは雨漏りする恐れが出てきたことから、同じ市内にある役員宅へ

遷座し、屋根葺替工事を行いました。

新型コロナウイルス感染による渡航禁止が解除され、ようやく理のお許しを戴き、このたび鎮座奉告祭が執り行われました。

ハリウッド教会(岡崎宏子会長、米国カリフォルニア州ロスアンゼルス市)では、去る立教185年7月26日のお運びで神殿屋根葺替願の理のお許しを戴きましたので、去る8月14・15日に大教会長(随行・大西知役員)を迎え、鎮座奉告祭が執り行われました。

ハリウッド教会は立教157年に一度屋根葺替を行いました。その後約30年を経て屋根の劣化が進み、立教182年の大雨では神殿参拝場の一部で雨漏りが発生したことから、役員信者と話し合いの上、屋根葺替を行うことに話がまとまりました。

そこで親神様・教祖お目標様と御霊様を同教会から約10キロ離れた上級サウザンパシ

先述のパシフィック教会ならびにハリウッド教会の奉告祭で大教会長は英語で挨拶を行い、教祖140年祭に向かう三年千日の活動について述べられました。

また両教会の鎮座奉告祭には片山幹太郎君、大西太一君の両青年も勤められました。



(写真)屋根葺替をしたハリウッド教会外観

本島団鼓笛隊 夏季特別合同練習会

本島団鼓笛隊(鎌田典夫部長)では7月27日から31日まで本島詰所において「夏季特別合同練習会」を実施。総勢70名(ドリーム隊9名、本隊24名、高校生9名、リーダー28名)が参加しました。

期間中は、鼓笛練習を行ったほか、夏休み子どもひのきしん、廻廊拭きひのきしんにも参加しました。

30日は和太鼓ほんじまと共に本島ジョイントコンサートに出演。

31日は本部の鼓笛オンパレードに出演して、本隊は



金賞、ドリルチームは優秀演技賞、ドリーム隊は奨励賞を受賞しました。

少年会本島団 第32回総会と夏のつどい

少年会本島団(岩橋竜造団長)では、8月21日大教会において「第32回総会と夏のつどい」を開催。少年会員18名、高校生5名の計23名が参加しました。

午前10時30分より神殿において、世界平和とコロナウイルス終息のお願いと「よろづよ八首総立まなび」をつとめ、続いて「総会」が行われました。

総会では始めに少年会長様御告辞を戴き、続いて挨拶に立った大教会長より「声は肥と聞かせて頂きます。声は相

され「鼓笛隊の練習が終わっても、鼓笛隊の隊員として、次に会う日まで、ひのきしんの心で励ませて頂こう」と述べられました。

なお新型コロナウイルス感染症防止の上から、宿泊は合宿ではなく各教会や家庭ごとの部屋で宿泊し、日中だけの練習会となりました。



手だけでなく自分も変える力があります。困っている人にも声を掛けることはもちろん、お互いに積極的に優しい良い声を掛けあい、立派なようほくに育ちましょう」と述べられました。

早朝からの雨も止み、午後からは晴天のもと屋釜海水浴場で海水浴を楽しみ、本島の夏を満喫しました。

夕づとめ後、午後7時30分から講堂にて「本島ナイト」が催され、和太鼓、フラダンス、ゲームなど大いに盛り上がりました。

「学生生徒修養会高校の部」 受講者名簿

- (立教185年8月8日~12日) [計14名]
- 受講生
 - (3年生) ▼本島△羽里水琴 ▼本千嘉△沖克也 ▼赤峰△宇野早希恵 ▼大駿峰△森千乃 ▼肥後八峰△肥後大地 (2年生) ▼本田△佐々木ていか ▼大隅聖峰△伊藤暖留 ▼肥後八峰△赤澤蓮△甲斐高人 (1年生) ▼本島△羽里太 ▼渋谷△永島なつ△金城聖汰 ▼本千嘉△大中夢 ▼吉松峰△宮林明音
 - スタッフ [計4名]
 - ▼本島△片山かおり ▼本千代△吉田貴慶 ▼本備前△伊東賢太郎 ▼栄東峰△川村幸代

大教会長動向

▼9月(予定)▲ 1日~30日、修養科一期講師 以上

よるこひと 慶事

鎌田康典氏 (攝津分教会後継者)



いつほさん夫妻に7月8日第一子長女が誕生しました。「陽まり」と命名。

事情はいづ

(立教185年8月25日)

實峰分教会

任命願

新任教会長 江草克二

臨時祭典願

就任奉告祭 10月9日

恒例祭日変更願

春季大祭 1月10日

秋季大祭 10月10日

月次祭 毎月10日

(但し4月に限り6日)

以上

おとづけの理拝戴

(立教185年7月分)

本 撮 片山直道

大隅聖峰 油木田正巳

サンザンパシフィック

オカザキ・アキラ・ナイト

【計3名】

おとづけお取り次ぎ報告

(立教185年8月22日)

提出教会 16教会

報告数 2,590回

本年累計 11,107回

本島学生会サマーフェス

本島学生会(片山好次委員長)では3年振りの夏の行事として「本島学生会サマーフェス」を8月1日から1泊2日の日程で開催。19名(学生13名、スタッフ6名)が参加しました。

1日の開講式で大教会長は「学生会の活動は楽しいことばかりではないかもしれないかもしれませんが、ここで心を養わせてもらうのが学生会の活動だと思っていますので、2日間どんなことにも心を込めて、心を養う日々をお送り頂きたい」と話されました。

本部参拝後、境内地の清掃



ひのきしんを行い、午後からは鼓笛隊合同練習会などで使用した話所内、各所の清掃ひのきしんを行いました。

2日は六甲山にある「六甲山アスレチックパークグリーニア」に行きアスレチックを通して親睦を深めました。

あらかとつりよう入門塾

青年会本島分会(片山秀明委員長)では

8月2日午後

3時より、本

島話所にて

「あらかとつ

りよう入門

塾」を開催。学生会員ら5名

が参加し、委員から天理教青

年会の成り立ちや、活動方針

などについて説明を受け、座

談会を通して会員同士の交流

を深めました。



こかんに続く会

婦人会本島支部(片山かお

り支部長)では8月2日午後

3時より、本島話所にて「こ

かんに続く会」を開催。学



生5名が参加しました。片山かおり支部長より「こかんのみちすがら」につい

てのお話と、今年11月27日に行われる第30回女子青年大会についての説明がありました。

樺太おとまり会

樺太分教会(平井真治郎会

長、北海道美唄市)では8月

10日からの1泊2日間、教会

おとまり会を実施。10名(少

年会員5名、学生2名、育成

会員3名)が参加しました。

今年「生きるよろこびに

感謝しよう」をテーマに、教

話、おてふり練習、プール行

事、焼肉、花火、室内レクレー

ションなどを行い、コロナ感

染対策に

留意しな

がら、静

かに楽し

く盛り上

がりました。



赤峰少年会おとまり会

赤峰分教

会(向所隆

文会長、宮

崎県都城

市)では、

8月13日か

ら2泊3日



間、同教会を会場に教会おとまり会(赤峰キャンプ)を実施。少年会員7名、育成会員8名の15名が参加しました。

教話、おつとめ鳴物稽古、

草刈りひのきしん、宿題勉強

会のほか、夏の工作として

ペットボトルロケット製作、

ネイル体験、そば打ち体験等

を行い、プールにも行きました。

夜は境内地の芝生にテント

を設営し、虫の音を聴きなが

ら寝ました。

とりわけ今年から和太鼓演

奏に挑戦し、最終日は月次祭

終了後、神殿にて御供演奏を、

アニメ「鬼滅の刃」主題歌に合

わせて一手一つに元氣よく叩

き、参拝者の喝采を浴びました。



全教一斉にをいがけデー

【教会本部】

●期日：9月28日(水)、29日(木)、30日(金)

大教会参道草刈り

【青年会本島分会】

大教会参道斜面草刈ひのきしん
●日時：9月3日(土)午前10時～
9月4日(日)午後4時

にをいがけ名簿提出教会 (8月)		
本島 0	本京 7	本新田 2
本樺 12	本草 172	赤峰 10
本室 2	撮泉 3	豪峰 44
渋谷 10	本府中 4	倉峰 2
代々木 10	崇徳 13	栄東峰 10
本萬代 2	本宣道 1	仙峰 49
本都 65	本陽山 4	
計 20 教会		373 名

統計 (7月1日～31日)

教会名	初席	中席	妻の座	修料	教人講書	検定講書
太里	1					
米里	1					
撮九		1	1			
小倉		1				
陽山	1					
南峰	1					
吉峰		1				
倉峰		1				
大隅聖			1			
別峰	1					
吉松	1					
肥後八	1					
新信	1					
竹ガバ	1	1	1			
合計	9	5	3	0	0	0

大教会信者会館シーツ

【本島大教会】

9月より大教会信者会館宿泊におけるシーツと枕カバーの取扱いについて、本島詰所と同じく、大教会到着時に事務所で宿泊者数分をお渡ししますので、各自で取付け、ご出発のときは各自で外して所定の場所へ返却いただくこととなります。ご協力願います。

本島管内学生の集い

【本島学生会】

●日時：9月19日(祝)午前10時より
●会場：本島詰所
●内容：「道の学生ひのきしん DAY」に合わせた行事

女鳴物勉強会

【婦人会本島支部】

●日時：9月22日夕づとめ後
●会場：大教会
●内容：糸が切れたときの対処の仕方

雅楽講習会

【青年会本島分会】

●日時：10月9日(日)午前9時30分～10日(祝)午後5時
●会場：本島詰所
●内容：沓越調を主とした練習

9月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・炊事ひのきしん〉
●期間：9月21日～23日
●派遣教会：本承德①

〈詰所・食堂ひのきしん〉
●期間：9月25日～26日
●派遣教会：本京②、本九台①

大教会9月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

●対象：9月22日大教会9月月次祭に参拝できないため、ライブ中継視聴を希望する方
●申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
●申込締切：9月21日午後5時まで
●ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



<https://www.honjima.com/>
本島大教会ウェブサイト

秋季霊祭のご案内

【本島大教会】

9月23日、大教会で執り行われる秋季霊祭には、左記の霊様が年祭に当たっておられますので、ご連絡いたします。

<p>■五年祭</p> <p>片山みちる 刀目(本宣道)</p> <p>ミルズ恵子 刀目</p> <p>大谷清野 刀目(仁徳)</p> <p>(キャピタル)</p>	<p>■四十年祭</p> <p>吉田善一 主(本島)</p> <p>内盛蔵 主(本新郷)</p>
<p>■十年祭</p> <p>大上千代子 刀目(本島)</p> <p>谷口昭二 主(本倉岡)</p>	<p>■五十年祭</p> <p>牧野達男 主(本京)</p> <p>石田数馬 主(カカコ)</p> <p>松川徳代 刀目(本京)</p> <p>酒井薫明 主(本篠)</p> <p>渥美宗太郎 主(本島)</p> <p>山崎久衛 主(本海)</p> <p>棟本春太郎 主(イソイ)</p> <p>杉井とく多 刀目(本阿波)</p> <p>岡崎義治 主(本島)</p>
<p>■二十年祭</p> <p>池田道子 刀目(安藝本中)</p>	<p>■三十年祭</p> <p>中下初治 主(本新田)</p> <p>鈴木キヨコ 刀目(マリーナ)</p> <p>アンソニー・ゴードン 主(マリーナ)</p>

※教会名は連絡先であり、実際の所属とは異なる場合もあります。